

令和6年度第3回精華町男女共同参画審議会摘録

令和6年10月29日(火)
午前9時30分～
役場5階501・502会議室

1. 開会

【事務局】令和6年度第3回精華町男女共同参画審議会を始める。

【片上会長】<あいさつ>

【事務局】<資料確認>

2. 議事

【片上会長】まず、本日の出席委員は委任状を入れて13名中9名になる。精華町男女共同参画推進条例施行規則第10条第2項の規定により、出席委員が過半数を超えているため審議会が成立していることを報告する。

それでは次第に従い、これより議事に入る。(1)「第3次精華町男女共同参画計画策定にむけて」精華町男女共同参画計画素案について、説明願う。

【事務局】<精華町第3次男女共同参画計画素案について説明>

【片上会長】ご意見、ご質問はあるか。

【藤田委員】担当課の括弧書きをグリーンにしたことで、見やすくなった。34ページあたりから括弧書きが出てくるが、いきなり始まると何を指しているのかわからないので、その説明があれば良いと思う。

【古海委員】ダイジェスト版は、わかりやすくまとめられている。施策があるが、計画でめざす姿をイラストの横あたりに見出しのような感じで良いので、入れたほうがわかりやすいのではないか。あと、目標値が5年後についての解釈も入れたほうが良いのではないか。

【事務局】目標値が5年後については、計画書の2ページに記載があるが、ダイジェスト版にも入れるのはどうかということか。

【古海委員】ダイジェスト版を見て、計画の目指す方向性が見えてくると思う。

【片上会長】事務局で考慮願いたい。

【早 檜 委 員】素案の7ページ「4. 政策・方針決定過程への女性の参画状況」で精華町が増えているという表現になっている。グラフの最後のところが、精華町が増えていることがわかりにくい。折れ線グラフのマーカが京都府の■しか見えないので、むしろここは精華町が増えていることを強調する意味で○にしたほうが良いのではないか。

【事 務 局】精華町の○が下になっていて、京都府の■が上になっているのを逆にすることか。

【早 檜 委 員】概要版でも同様の記載になっている。

【事 務 局】対策を検討する。

【片 上 会 長】吉井副会長から何かあるか。

【吉井副会長】特にない。

【片 上 会 長】私のほうから確認したい。16ページのグラフの男性30～39歳の『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が7.4%しかない。ここだけ極端に低いのは、何かあるのか。

【藤 田 委 員】今は共働きが多いので、余計にそう思われている方が多いと思ったが。

【片 上 会 長】それだけに社会でいろいろなことを言われているのではないか。ここが20.0%くらいあるならわかるが、逆だと思う。

【藤 田 委 員】夫が外で働くべきと思う人が7.4%だから、少ない。

【事 務 局】表現が難しいが、女性は家にとっている人が少ないということである。

【藤 田 委 員】30～39歳の男性が一番パートナーも外で働いている方が多い。

【事 務 局】おっしゃるように、一番共働きが多く、奥さんも働きに出ている家庭事情の世代だと思う。だから、女性も働きに出ているほうが良いという人が多い。

【片 上 会 長】差が大きい。

【事 務 局】ちょうど子育ても終わってパートタイム就労にでも出ようかという年代になる。

【片 上 会 長】それと、23ページの基本方針5「町男性職員の育児休業取得率」の目標100.0%に達していないのに「達成」とあるのは何故か。

【事務局】これは第2次計画の指標なので、目標値は10.0%だった。

【事務局】当時は10.0%だった。皆さんに検証していただいて100.0%にするべきということで、今回は100.0%に変更している。

【片上会長】今の目標値とは違うわけか。

【事務局】そうである。

【片上会長】これはわかりにくい。注釈が必要ではないか。

【事務局】この上のほうをたどっていくとそれぞれの年度が書いてあるが、確かにわかりにくい。

【片上会長】どう考えても最高88.9%までしかないのに、目標値100.0%といわれて「達成」となっていると。

【事務局】右端に「10.0%」と書いている。この10.0%が少なすぎるのではないかという議論を重ねていただいて、今回100.0%になった。

【片上会長】100.0%と勘違いしていた。申し訳ない。

それと、25ページに「女性に対する暴力を根絶する」とあるが、12行目あたりに「女性でおよそ6割、男性でおよそ8割」とある。「女性」と特定するのか。文章の内容とタイトルが一致しない。最近は男性もDV被害にあっている方が多い。あくまで男女共同参画なので「女性」という限定は不要ではないか。

【事務局】前回の第2次計画が「女性に対する暴力を根絶する」で、第3次計画の方向性は「あらゆる暴力を根絶する」にしている。

【事務局】25ページは、第2次計画の評価と課題のまとめになる。

【片上会長】一般の方がこの資料を見た時に誤解を招くことがないようにしないとけない。

【事務局】第2次計画策定当初から現在は男女間のDVの考え方も随分変わっている。その変化がここに表れている。

【片上会長】37ページ「計画の指標」の「特定健診」の目標値が65.0%とあるが、人間ドックを入れると100.0%を超えるのか。人間ドックとの合計ならわかるが、特定健診だけでこの数字はいかがなものか。サラリーマンはどちらかという

と特定健診ではなく、人間ドックを受けているのではないか。65.0%は目標値として成立しないのではないか。

【事務局】今細かなデータを持ち合わせていないが、特定健診と人間ドックを合わせても100.0%はいかない。

【片上会長】人間ドックについては、町ではつかみにくいのか。支援金が出ているが。

【事務局】町が関わっている分については、当然数字は把握できる。

【片上会長】私が現役の頃は、町のものとは会社の間ドックを使っていた。どちらも支援があるので負担がすごく少ない。会社のもも町の間ドックも受けている方が多いと思う。

【事務局】元々、第3期精華町健康増進計画の特定健診受診率の目標値がこの数値になる。他の計画との整合性を図る為、そのままその数値を載せている。

【片上会長】ということは、特定健診だけという見方なのか。

【事務局】そうである。

【藤田委員】不思議には思う。私は会社で子宮がん検診や乳がん検診を無料で受けていて、町の間ドックは受けたことがない。そういう人達は、どこに反映されているのか。町で受けた方だけの数値であれば、全体は違うのではないかと思いながら見ている。

【事務局】町から案内を送っている対象者が分母になると思う。

【藤田委員】それから、他の方もおっしゃっていたように、24ページの第2次計画かどうかは私も見にくいと思った。第3次計画は下に「第3次計画の方向性」と囲まれているので、それぞれの見出しも第2次計画時はこれと括弧書きを入れても良いのではないか。

【早樫委員】例えば第2次計画の達成状況と評価と課題は第2章の7、8になっているが、第3章として章立てすると比較的わかりやすいのではないか。

【事務局】第2章は「精華町の現状」という大きな見出しで、第2次計画の最終の結果と評価とまとめがあり、それを受けて第3章で新たな計画で目指すものという流れになっている。

【早樫委員】今更ながらで、変更が難しいのであれば別に構わないが。今のご意見を聞く

と、別章にあるほうがわかりやすいと思った。

【片上会長】提案として事務局は聞いておいてもらいたい。

【田尻委員】10年計画なので、例えば今回のようにパンデミックがあると相当大きく変化する。平時と有事も含めてどう考えるのか。災害がないことはまずないので、そのあたりも含めて考えていく必要がある。特に少子高齢化は大きい。町の人口を見てもそうだが、一番働き盛りの世代が相当減っている。一体この町はどうなっていくのか。そのあたりも含めて総合的に考えていかないと、働き手がいないと、もし何かあった時に私達の命を繋いでいただく方が少ないことになる。それは、非常に大きな問題だと思う。

【片上会長】他になければ、次に進めたい。続いて、概要版について事務局より説明願う。

【事務局】＜精華町第3次男女共同参画計画概要版素案について説明＞

【田尻委員】最終頁について事務局はどう考えているのか。

【事務局】相談先はホームページに記載があるので、他に優先するものがあれば二次元コード等で小さくして載せることもできる。

【田尻委員】精華町民としては、自分の相談がどれにあてはまるのか悩む。そこに行かなければ相談できないのかと思う。一つの部署で全て対応できることが一番望ましい。本当に悩んでいる方達の為に、一つの窓口で全て対応できるように簡素化していくことが求められる。医師も警察も行政も全部が一体化する状況を作っていないと、どこに行けば良いのかわからない。精華町商工会では、よろず相談のようにあらゆる相談を受けている。対応できるものは対応し、できなければ京都府やいろいろな機関に繋げている。特に今の若い人達は、もういいやとなると次に来なくなる。それだけは避けたい。若い人達がこれからの未来を作っていくので、ここで暮らし続けることがしやすい状況を作っていくことが大事である。

【藤田委員】9月に子育て支援の代表者会議をしたが、電話番号の記載があってもQRコードを読み取るとかそういうことしかせず、電話は躊躇するようである。こういう窓口一覧が掲載されていても、どこに相談すれば良いのかわからないということがあと思うので、それよりは用語集のような形でQRコードを入れて「困った方はまずこちらにアクセス」としておいたほうが良いのではないか。困った方はSNSで発信したりしていると思う。最終頁の案3つの内、電

話番号一覧は、あまり意味がないと思うし、男女共同参画の取組への参加を呼びかけられても何をしたらよいか分からないので、男女共同参画の用語説明の案が良いと思った。電話番号は、今の若い方にはひびかない。

【田尻委員】おっしゃるとおり、企業では名刺の裏にQRコードをつけて、それを読み取るとホームページに飛ぶので、どんな企業かすぐわかる。そういう時代になっている。行政はどうしても紙で出したいのはわかるが、時代は紙を必要としていない。そういうことに対応していくことが望ましいのではないか。

【岩本委員】2025年日本国際博覧会のチケットもウェブで購入する必要があり、年配の方が購入できないと聞いている。年配の方がアクセスできる電話番号も残しておいたほうが良いのではないか。それプラスQRコード等のどちらも載せることが親切だと思う。

【古海委員】年齢を重ねた人達は、紙で見たい、確認したいところがある。インターネットでも連絡先がほとんどわからない。できれば紙ベースとQRコードを併用したほうが良いと思う。いろいろな相談事はどこに行けば良いのかと思われている。高齢者は地域包括支援センター等で窓口が一本化されているが、一番社会で活躍している世代の人達の相談先がわからないのが現状である。ワンストップの相談窓口ができればと思う。

【片上会長】一つ提案がある。緊急連絡がこの中にあるだけでも良いのではないか。消防は消防だけ、介護は介護だけのものはあるが、ある程度横断的に載っているものがない。ここに集約されてくると、利用価値が出てくる。利用させることが有効だと思う。なにかそこにプラスがあれば。

【事務局】緊急連絡先の一覧みたいなものが今は浮かばないが、確かにずっと置いておけるようなものを入れておけば、捨てられずに保管してもらえる。

【片上会長】とりあえず、わからなければこれを引っ張り出してくるという安心感はすごくあると思う。

【吉井副会長】両方案が良いと思う。電話での問い合わせと、QRコードでサイトに繋がるような、若い人もワンストップで情報が得られるようなものが、小さくても良いのであるほうが良いと思いながら聞いていた。

【早樫委員】概要版の2ページ「2. 女性の就労状況の変化」の吹き出しの中に「精華町では働くことを希望する女性が増えています」とあるが、この元データはどれ

か。女性の労働力率の推移はわかったが。

それと、4ページの基本方針の1と2は言葉が重なっていないか。同じ言葉が2回出てくる。再度見出し等を見直してほしい。それと、5ページの基本方針7の③と④も重複している。

それから、施策の柱1の囲みの文章と施策の柱2の冒頭の文章もそうだが、読んでいて4行は長い。2行で一度止められないか。行政は長い文章を作るが、一般の人は読みにくいのではないか。これは印象なので、検討願いたい。

6ページの施策の柱3の囲みの文章に「また、暴力とは犯罪を含む人権侵害であり」とあるが、「暴力は犯罪につながる人権侵害であり」ではないか。細かいところで恐縮だが、検討願いたい。

【事務局】重複している箇所は、再度確認したい。

【田尻委員】最後の3ページの一番下の住所も電話番号も間違えているのではないか。

【事務局】案で作成した際に誤ってしまっている

【片上会長】校正が入るので、その際にチェックいただきたい。

【事務局】この状態で委員の先生方に出すのは大変失礼なことで、申し訳ない。

【松延委員】私は、最後の「一緒に参加しませんか」はあったら良いと思う。こういうところからも見つけられるものがたくさんあったりする。仲間が増えることでいろいろな問題が解決すると思うので、こういうページもあれば良いと思う。

【早樫委員】「一人ひとりが互いに認め合い、いきいきと暮らせるまち」は、もう少し皆が気に留めるように目立たせてはどうか。

【事務局】概要版の1ページの一番下をもう少し目立つように、というご意見か。

【早樫委員】そうである。

【片上会長】このページは、モノクロか。

【事務局】概要版は、フルカラーで考えている。

【片上会長】このあたりで区切りとしたい。事務局何かあるか。

【事務局】概要版と計画の表紙については、事務局に一任いただけたらと思っている。

11月にせいか祭りがあるので、その時にここいこ広場のブースを設ける。そ

の一角で表紙デザインの投票をしてもらいたいと考えている。いろいろな方々に手に取ってもらえるような工夫として、精華町の広報キャラクターの女性活躍推進バージョンでパンツスタイルの京町セイカを作ってもらったので、それらを取り込んでいくつか表紙デザインを考え、投票してもらいたい。

【片上会長】続いて、第4回審議会までのスケジュールについて事務局より説明願う。

【事務局】＜第4回審議会までのスケジュールについて説明＞

【片上会長】その他、全般をとおして何かご意見等はあるか。

【事務局】＜女性デジタル人材起業家育成支援型事業について報告＞

【岩本委員】保育の待機児童は、どういう状況か。働きたい女性がいても、預けられないと働けない。

【事務局】詳細は担当部署に確認する必要があるが、精華町は基本的には待機児童ゼロの状況で施策を進めている。例えば、希望する保育所に入れない為辞退する方がある。それを待機と言われるとそうになってしまうかもしれないが、門前払いはしていない状態である。

【岩本委員】私は大阪府の人間だが、待機児童がゼロと聞いて驚いた。

【事務局】保育施策については、近隣の自治体でも一歩踏み込んだことに取り組んでいる。

【岩本委員】それなら、働きたいと思えば預けられるところがあるということか。

【事務局】そうである。

【田尻委員】もう一点は、京都府知事の意向で子育て環境日本一を目指している為、企業に対しても支援をしている。例えば、大手であれば企業内保育施設に補助金を相当出している。

【古海委員】こども誰でも通園制度を国が言い出している。

【事務局】新しい施策・制度が提案されたら、なるべく早く手をあげて京都府内でも一番になるようにしている。

【早樫委員】精華町子ども・子育て会議に出席しているが、概ね今おっしゃったような理解をしている。

【松延委員】学童保育が気になる。夏休みに預けたくても日頃預けていないと預かってもらえないようで、働いてもらいたくてもできない状況が生じている。学童保育がもう少し融通がきけば良いと思う。

【岩本委員】長期休暇中だけでは預かれないと私も聞いたことがある。

【事務局】日頃のキャパもあるので、長期休暇で急に増えても場所や人の手配等ができていくと思う。

【岩本委員】精華町の職員は有資格者という決まりがあり、木津川市は資格がなくても良い。

【事務局】精華町は、学童保育も保育も教員資格か保育・幼稚園教諭かどれかの有資格者を配置している。

【松延委員】それは、親として預ける立場であればどっちもどっちで難しい。

【岩本委員】子どもが大きくなって留守番ができるようになるまで待つしかない状況である。

【片上会長】受け入れ側の人材を集めるのが大変だと思う。

【田尻委員】企業側としては労働者不足なので、できる限り長く働いてほしい思いがある。企業側の努力だけでは難しい。まだまだそういう部分は行き届いていないところがある。いろいろご意見をいただいて、国にもっていかないといけないと思っている。

【片上会長】これで議事は終了したい。事務局にお返しする。

【事務局】<パブリックコメントについて報告>

これをもって第3回男女共同参画審議会を閉会する。

3. 閉会